

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

保育未来学科

授業科目 (科目ID)	英語コミュニケーション		担当教員 (実務経験)	川村 ジェアネット 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	新しい単語を学び、基礎的な会話力を身につける。				
到達目標	子どもたちが楽しく英語を学べるような工夫ができる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	・定期試験によりコミュニケーション能力を確認する ・ペア及びグループワークでの参加状況から積極性を確認する		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	プリント、カード、写真などを活用し、歌や遊びも加えながら、楽しく授業をしていきたいと思ひます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	Greetings	Basic Greetings.、Exercises using cards and prints.		
	2	Self Introduction	Printed games and cards.、Pair work.		
	3	Numbers	How to use numbers Correctly and pronunciation exercises.		
	4	Address	The students will learn how to write address and letters.		
	5	Telephone	Oral exercises. Use of pictures.		
	6	Places/Directions	Group work. Places Game. Use of pictures.		
	7	Jobs	The students will research different kinds of jobs.		
	8	Wh Questions	Training of(Where、When、What、How、etc)		
	9	Verbs	Magnet Cards Game.、Meaning and Basic uses.		
	10	Children Songs	About animals、food、etc.、(Group work)Play and sing.		
	11	Adjectives	Opposite words.		
	12	Children Games	Games that children play in Japan and compare with other countries.		
	13	Annual Events	Explanation: Questions/Answers/Easter/Halloween/X-mas		
	14	Prepositions	Cards/Sentences(Basic)		
15	Evaluation	Evaluation of general learning and participation.			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	健康科学	担当教員 (実務経験)	上山 純一 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8回	時間数	15時間
授業目的	「健康」を維持・増進するために必要な体のしくみ・運動科学の機序を理解し、健康の知識を習得する。				
到達目標	「健康」を維持・増進するためには、何をすると良いのか、どのように日々過ごせば良いのかを自分自身の生活に照らし合わせて適切に論じることができる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	40%	定期試験・レポート・小テスト・取組姿勢/参加態度による総合評価		
	レポート	20%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	生涯健康であることは重要なことです。体のしくみと運動の科学に関心を持ち、健康の知識を深めましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	現代社会と健康	WHO憲章における「健康」の定義について・「健康」とは何か、現代の健康課題		
	2	体のしくみと運動(1)	骨格系・筋肉系・脳・神経系		
	3	体のしくみと運動(2)	呼吸器系・循環器系・内分泌系		
	4	体のしくみと運動(3)	内臓とからだの仕組み		
	5	生活習慣と健康(1)	生活習慣病について		
	6	生活習慣と健康(2)	食事と栄養素のバランスを考える、6大栄養素について		
	7	生活習慣と健康(3)	運動と食事、ストレス、トレーニング、理論、薬物依存症について		
	8	まとめ	総復習		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	スポーツ(実技)		担当教員 (実務経験)	上山 純一 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実技		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	スポーツを通して、以下の①-③のスキルを養う。 ①問題解決力(分析的思考、クリティカルシンキング、創造性・独自性・進取の精神)②自己管理能力(能動的学習と学習ストラテジー、レジリエンス・ストレス耐性・フレキシビリティ) ③協調性(適応力、リーダーシップと社会的「他者への」影響力)				
到達目標	基本的なコンディショニング(身体の調整)とトレーニングを行うことができる。各種目の理解を深めると共に、ルールを守って、安全にスポーツを行うことができる。最初から最後まで仲間と協力し、運動を楽しむことができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて授業内で資料を配布します。				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	その他の内訳 ○パフォーマンスチェック(20%):好きなスポーツ種目を選択し、その技術を自由に組み合わせて披露(自己PR)する実技試験です。習熟度とともに、創造性・独自性を評価します。(30秒程度) ○積極性(40%):毎回の授業への積極性/やる気を評価します。また、スポーツを楽しんで行っているかどうかも重視します。 ○協調性/協働性(40%):準備・練習・ゲーム・後片付け等、皆と協力して授業に参加しているかどうかを見ます。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	100%			
履修上の 留意事項	動きやすい服装と運動靴(室内用)で、必ず授業に参加して下さい。質の良い食事(栄養)と睡眠をしっかりとして、授業に臨みましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	本授業の目的と展開についての説明、コンディショニング&トレーニング理論		
	2	基礎運動(1)	体軸を整えるコンディショニング、基礎体力を高める自重トレーニング		
	3	基礎運動(2)	コーディネーショントレーニング 効果的なウォーミングアップとクールダウンの方法		
	4	ドッジボール(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	5	ドッジボール(2)	ゲーム、クールダウン		
	6	バスケットボール(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	7	バスケットボール(2)	ゲーム、クールダウン		
	8	バレーボール(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	9	バレーボール(2)	ゲーム、クールダウン		
	10	フットサル(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	11	フットサル(2)	ゲーム、クールダウン		
	12	その他のスポーツ(1)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
	13	その他のスポーツ(2)	ゲーム、クールダウン		
	14	その他のスポーツ(3)	ルールの確認、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム		
15	パフォーマンスチェック	各自選択した種目の技術を自己アピールする実技試験			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	文章表現	担当教員 (実務経験)	河原 範毅 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	選択必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	文章の書き方の基本技法の技術を習得し、社会人として求められるコミュニケーション能力の基礎を身につける。				
到達目標	記録の重要性と目的を理解し、学んだ文章の基礎及び文章表現を実践業務に活用できる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	試験と提出物で総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	文章の基礎(1)	表記Ⅰ		
	2	文章の基礎(2)	漢字・語彙Ⅰ		
	3	文章の基礎(3)	漢字・語彙Ⅱ		
	4	文章の基礎(4)	言葉遣いⅠ		
	5	文章の基礎(5)	言葉遣いⅡ		
	6	文章の基礎(6)	言葉遣いⅢ		
	7	文章の基礎(7)	表記Ⅱ		
	8	文章の基礎(8)	表記Ⅲ		
	9	文章の基礎(9)	表現Ⅰ		
	10	文章の基礎(10)	表現Ⅱ		
	11	文章の基礎(11)	言葉遣いⅣ		
	12	文章表現の実践(1)	書簡文Ⅰ		
	13	文章表現の実践(2)	書簡文Ⅱ		
	14	文章表現の実践(3)	構成		
15	文章表現の実践(4)	実習関連			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	憲法		担当教員 (実務経験)	落合 研一 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	選択必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	日本国民として身につけなければならない憲法の基本的事項を理解する。				
到達目標	日常生活で要求される憲法課題について、論じることができるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	〈参考図書〉 日本国憲法－憲法基本判例付－／上田正一／豊岡短期大学				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	・定期試験80% ・その他:授業参加態度20%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	①国民生活と憲法の関わりの重要性を理解していただきたい。 ②具体的事例や今日的な話題をとおして自ら考え、実践することができる「生きた憲法」を学んでいただきたい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	憲法概論	憲法を学ぶにあたって		
	2	日本国憲法の歩み	制定過程		
	3	日本国憲法の基本原理	国民主権主義・平和主義・人権尊重主義		
	4	統治機構1	国会の権能・機能・組織		
	5	統治機構2	内閣の権能・機能・組織		
	6	統治機構3	裁判所の権能・機能・組織、裁判員制度		
	7	統治機構4	行政改革・地方分権・地方自治体の再編成		
	8	基本的人権1	人権保障の歴史的経緯		
	9	基本的人権2	自由権的基本権		
	10	基本的人権3	社会権的基本権		
	11	基本的人権4	新しい人権		
	12	憲法改正論議	天皇の地位・平和主義・人権保障		
	13	憲法問題を問う	演習…一問一答形式		
	14	憲法問題を問う	演習…論述形式		
15	総復習	テスト対策			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	情報リテラシーと処理技術		担当教員 (実務経験)	菅原 和良 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	選択必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	課題の発見・解決を図る学習活動を通して、基本的なソフトウェアの利用について理解するとともに、情報社会における個人の責任や情報リテラシーについての理解を深める。				
到達目標	講義・演習・課題発表・ディスカッションを組み合わせ、自分のアイデアや考えを効果的に伝え、情報社会に主体的に参画する態度を身に付ける。				
テキスト・ 参考図書等	イチからしっかり学ぶ！ Office基礎と情報モラル(noa出版)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	授業では原則毎回課題発表を行うことから、個人の発表に対する取り組みやプレゼン、ディスカッション、グループ協議などの演習を試験と同等に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	50%			
履修上の 留意事項	1. 学生としての授業規律と学習に対する意欲を期待する。 2. コミュニケーションスキルを身に付けることを期待する。 3. 授業への積極的・主体的参加を期待する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 授業ガイダンス	年間指導計画と授業の進め方などについての説明		
	2	セキュリティと情報モラル	セキュリティとは コンピューターウイルス		
	3	Word(1)入力・修正	文書の新規作成、保存、文書を開く		
	4	Word(2)チラシ作成	書式、フォント、センタリング		
	5	Word(3)レポート作成	ページ設定、表紙の作成、画像の挿入		
	6	Excel(1)表作成	データの入力、訂正、削除		
	7	Excel(2)計算式	数式の入力、数式のコピー、関数の利用		
	8	Excel(3)グラフ作成	棒グラフ、円グラフ、レーダーチャート		
	9	PowerPoint(1)プレゼン	プレゼンテーションの要点、形式、画面構成		
	10	PowerPoint(2)スライド作成①	スライドデザインの選択、文字の入力、スライドのコピー		
	11	PowerPoint(3)スライド作成②	スライドの編集、画像の挿入、図形の作成		
	12	PowerPoint(4)効果・発表	ワークショップ(1)		
	13	PowerPoint(5)プレゼンの実際①	ワークショップ(2)		
	14	PowerPoint(6)プレゼンの実際②	ワークショップ(3)		
15	情報活用についての授業総括	年間授業のまとめと自己評価			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	社会福祉論		担当教員 (実務経験)	鈴木 道代 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	少子高齢社会の現在、人々が生活するなかで直面する様々な生活問題を理解し、それらに対する社会福祉が果たすべき役割を理解することを目的とする。				
到達目標	①現代社会における様々な生活問題を理解し社会福祉の意義を説明できる②社会福祉に関する様々な制度や実施体系を理解し、説明できる③社会福祉における相談援助について理解、保育との関連を説明できる④社会福祉における利用者の保護の仕組みについて理解し、説明できる				
テキスト・ 参考図書等	【参考図書】 『シリーズ 保育と現代社会 保育と社会福祉【第3版】』／橋本 好市・宮田 徹編／(株)みらい				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	評価は定期試験(80%)、授業内での課題への取り組み状況・授業への参加状況など(20%)		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	・教科書は使用しませんが、参考図書をあげていますので必要な学生は学習に役立ててください。・毎回レジュメを配布します。板書(スライド)の内容をレジュメに書いてください。ノート代わりになります。・ノート代わりのレジュメは各自で整理してファイルしてください。・各テーマ終了時に、確認問題を実施します。学生の理解度の確認、復習に役立ててください。・日常生活で見聞する社会福祉の問題に関心をもち、学生自身の考えを持てるようにしてください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、社会福祉の概念と保育	・シラバスからの授業計画、評価方法の確認 ・社会福祉の概念と保育の意味		
	2	社会福祉の歴史と理念	・社会福祉の歴史、語義変遷、理念		
	3	社会福祉の実施体系	・社会福祉の対象、施設、法体系、利用形態の方式		
	4	利用者保護に関わる仕組み	・権利擁護、第三者評価、苦情解決		
	5	社会福祉における相談援助①	・社会福祉を担う専門職とソーシャルワークの視点		
	6	社会福祉における相談援助②	・社会福祉で活用する援助方法		
	7	社会福祉の動向と課題	・現代社会の人口動態と家族形態・機能の変化		
	8	子ども家庭への支援①	・子ども家庭福祉の概要、児童虐待防止法		
	9	子ども家庭への支援②	・児童擁護施設の概要、ひとり親家庭への支援、保育施策の動向		
	10	障害児・者への支援①	・障害概念とノーマライゼーション		
	11	障害児・者への支援②	・障害福祉の関連法と合理的配慮		
	12	生活困窮への支援①	・貧困概念とその現状、子どもの貧困		
	13	生活困窮への支援②	・生活困窮者自立支援制度、生活保護制度		
	14	高齢者への支援①	・社会保険制度の概要と介護保険制度		
15	高齢者への支援②	・高齢者の概念、身体的・精神的特性、認知症理解			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こども家庭福祉	担当教員 (実務経験)	中村 さやか 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	子ども家庭福祉の歴史、今日的課題や現状を学び、子ども家庭福祉の理論と実際について知る。1児童養護の体系や制度について触れ、子ども家庭福祉の在り方に関する理解を深める。2子ども家庭福祉の実践に触れ、子ども家庭福祉の内容に関する理解を深める。3子ども家庭福祉の実践に触れ、保育士の在り方に関する理解を深める。				
到達目標	子ども家庭福祉の制度や実施体系の説明、及び保育との関連性について述べるができる。				
テキスト・ 参考図書等	最新保育士養成講座 第3巻 子ども家庭福祉／「最新 保育士養成講座」総括編集委員会／全国社会福祉協議会				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験、グループワーク参加状況などを総合して評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	講義形式を中心にして授業を進めます。子どもは心身ともに成長する権利を持っています。社会は児童が健全に育つように支援する義務をおっています。子ども家庭福祉の授業を通して、将来、子どもと関わる際に必要な制度等に関する理解を深めるとともに保育士としての在り方を学びます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	子ども家庭福祉の概要	子ども家庭福祉・保育とは何か		
	2	現代社会と子ども家庭福祉	少子化の動向 児童をとりまく環境の変化、家族関係の変化、子ども家庭福祉ニーズ		
	3	子ども家庭福祉の歴史的展開(1)	子ども家庭福祉の概念 理念 歴史		
	4	子ども家庭福祉の歴史的展開(2)	子ども家庭福祉の歴史、現代の子ども家庭福祉の課題		
	5	諸外国における現在の子ども家庭福祉事情	各国の子ども家庭福祉体制の紹介		
	6	子ども家庭福祉の法体系(1)	現在の児童福祉法と考え方		
	7	子ども家庭福祉の法体系(2)	児童福祉法以外の重要法規		
	8	子ども家庭福祉の実施体制(1)	行政機関と関係機関		
	9	子ども家庭福祉の実施体制(2)	児童福祉施設		
	10	子ども家庭福祉の実施体制(3)	子ども家庭福祉の専門職と資格、ネットワーク		
	11	子ども家庭福祉施策の現状と課題(1)	子育て支援サービス、多様な保育サービス		
	12	子ども家庭福祉施策の現状と課題(2)	健全育成・母子保健、障害のある子どもへの支援		
	13	子ども家庭福祉施策の現状と課題(3)	要保護児童施策と虐待の防止、ひとり親家庭等の福祉		
	14	子ども家庭福祉援助活動	援助活動のプロセスと実際		
15	まとめ	講義全体の総括と重点事項の確認			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育原理	担当教員 (実務経験)	美馬 正和 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として児童発達支援センターに勤務		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	1.保育の意義及び、保育所保育指針における保育の基本、保育の内容と方法の基本について理解する。 2.保育の思想と歴史の変遷について理解する。3.保育の現状と課題について考察する。				
到達目標	・保育の理念および基本的な知識、保育所保育指針を学び、正しく説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	新基本保育シリーズ1 第1巻「保育原理」/天野珠路、北野幸子/中央法規(参考図書)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	・授業での積極性、グループワーク等に対する参加意欲、レポート(30%) ・筆記試験による評価(60%) ・プリント資料の活用、提出とその内容(10%)		
	レポート	10%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	プリント資料を活用し、グループワーク等も行いながら保育の原理と制度、保育の基本をしっかりと理解し実践しましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 保育の意義	・年間授業の概要、評価の方法説明 ・保育の理念と概念		
	2	保育の社会的役割と責任	・子ども家庭福祉と保育 ・子どもの虐待防止と保育		
	3	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	・子ども・子育て支援新制度について ・社会的養護と保育		
	4	保育の実施体系	・保育施設の設置および運営の基準 ・保育の必要性の認定		
	5	保育所保育指針に基づく保育	・保育所保育指針とは何か ・保育指針に基づく保育の展開について		
	6	保育の目標と方法	・環境を通じた保育 ・生活と遊びを通じた総合的な保育		
	7	乳児の保育	・乳児保育の基本 ・乳児保育の内容 ・乳児保育の配慮事項		
	8	1歳以上3歳未満児の保育	・1歳以上3歳未満児の保育について		
	9	3歳以上の保育	・3歳以上の保育について		
	10	子ども理解に基づく保育の過程①	・子ども理解の視点 ・子ども理解に基づく保育の計画		
	11	子ども理解に基づく保育の過程②	・子ども理解の方法 ・指導計画や実践記録について		
	12	諸外国の保育の思想と歴史	・近代以前の保育と保育思想 ・保育思想を学ぶ必要性		
	13	日本の保育の思想と歴史	・近代までの日本の保育の思想と歴史について		
	14	諸外国の保育の現状と課題	・諸外国の保育の現状と課題について		
15	まとめ	・日本の保育の現状と課題について			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

保育未来学科

授業科目 (科目ID)	社会的養護 I		担当教員 (実務経験)	巴 夏樹 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として児童養護施設に勤務	
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	社会的養護に関する現状や課題、その実際について学ぶ。				
到達目標	児童福祉施設などの実践内容について触れ、社会的養護が必要な児童または保護者への支援などについて説明できる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験、提出物、ワークへの取り組み状況、積極的な発言・質問を含む参加状況等を総合して評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	プリントを活用し、講義形式を中心に授業を進めます。配布枚数が多くなるので、管理できるよう各自工夫してください。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	社会的養護の学習	・学習の進め方 ・社会的養護とは ・社会的養護に関する用語		
	2	社会的養護の基本的な考え方	・社会的養護の基本原則 ・社会的養護の現状 ・社会的養護と家庭		
	3	子どもの権利	・子どもの権利についての基本的考え ・児童の権利に関する条約 ・子どもの権利に関する取り組み		
	4	現代社会に暮らす子どもと家庭	・日本の社会の状況 ・子どもと家族の状況		
	5	子どもの養護の歴史	・子どもの養護の歴史 ・養護を必要とする子ども		
	6	社会的養護の体系:家庭・施設・里親	・社会的養護の体系 ・社会的養護体系の課題		
	7	社会的養護の制度	・社会的養護の制度 ・家庭養護 ・施設養護		
	8	施設養護の特質	・施設養護の役割 ・施設の集団生活		
	9	施設養護の基本原理	・施設養護の基本原理 ・運営指針における基本原理		
	10	施設養護の実際1	・日常生活支援 ・自立支援		
	11	施設養護の実際2	・施設養護の治療的援助 ・施設養護の家族・地域支援		
	12	社会的養護とソーシャルワーク	・ソーシャルワークの理解 ・ファミリーソーシャルワーク		
	13	児童福祉施設の運営管理	・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 ・施設内虐待、苦情解決の仕組み等の実際		
	14	児童家庭福祉援助者の資質・倫理	・児童家庭福祉の仕事の特徴 ・児童家庭福祉援助者の資質・倫理		
15	社会的養護の課題 まとめ	・社会的養護のこれから ・学習内容の整理			